

令和8年（ワ）第10340号 損害賠償請求事件

原告 A 外19名

被告 日本誠真会 外2名

意見陳述書

令和8年6月12日

東京地方裁判所民事第15部合CにA係 御中

原告ら訴訟代理人弁護士 木 原 功 仁 哉

この度、政治団体日本誠真会の元会員・支援者20名が、誠真会、吉野敏明党首及び吉野敏明後援会を相手取って民事訴訟を提起したことについて、訴状の主張に敷衍して、この際、原告の皆さんが当職に提出したアンケートの中から、数名の方の生の声をそのまま紹介させていただきます。

【原告Rさん（元会員）】

（1）寄附等（パーティー券・グッズ購入、党費納入）をしようと思った理由は何ですか？

日本誠真会の理念や眞生護憲論に賛同し、日本誠真会を国政政党とするため参議院選挙の資金として少しでも役に立てればと考えて、寄付やグッズ購入をしました。

（2）原告団に加わろうと思った理由は何ですか？

吉野敏明は、全国の45選挙区すべてに候補者を擁立するためには資金が必要であるとして、動画配信で繰り返し寄付を呼びかけ、結果として2億円を超える資金を集めました。しかも、選挙前には献金額や寄付額を日々報告し、資金面の透明性や誠実さを強調していました。ところが、実際には候補者擁立は10選挙区・比例2名の合計12名にとどまり、その後も集めた資金の用途について十分な説明はありませんでした。

さらに、参議院選挙に向けた準備の過程でも、地方組織づくりや政策の取りまとめは遅れており、それらに党首である吉野敏明が主体的に関与しているようには見えませんでした。むしろ、当時の副党首であった木原氏が、その実務の大半を担っているように見えました。日々の配信の中でも、ポスター貼りなどの選挙ボランティアを自ら積極的に呼びかける場面は少なく、選挙が近づくにつれて街頭活動はやや増えたも

の、全体としては本職や配信活動が従来どおり続いており、選挙に全力で取り組んでいるとは私には思えませんでした。

このため、私は令和 7 年の参議院選挙期間中にはすでに、吉野敏明に本気で選挙に勝つ意思があるのか疑問を抱くようになっていました。ところが、開票後の総括配信でも寄付金の使途にはほとんど触れられず、不信感はさらに強まりました。

加えて、令和 7 年 12 月には、党の規約を無視して、副党首であった木原氏や顧問であった南出氏を独断的に除名・解任するなど、実質的に党運営を支えてきた人物を排除しながら、その経緯について十分な説明もありませんでした。この時点で、党運営は吉野敏明本人のほか、ごく限られた近親者・身内だけで進められているように見え、政党・政治団体の名を借りた私物化ではないかという疑念を強く持つに至りました。

このように、寄付金の使途について十分な説明を行わず、また党のために尽力してきた人物を排除していく一方で、支援者の善意や期待を利用して資金を集めたあり方は、私には政治活動というよりも、政治を利用した極めて不誠実な資金集めに見えました。日本の政治を少しでも良くしたいという思いから支援した人々の善意を踏みにじり、政治に対する不信や絶望をいっそう深める悪質な行為だと考えたため、私は原告団に加わりました。

(3) その他、ご意見等がありましたらどうぞ

本件、木原さんに感謝申し上げます。私は昨年 7 月時点で吉野に見切りをつけて退会手続きをしました。その際、吉野のような輩を信じてしまった己の迂闊さを呪い、しばらくは自責、無力感、無念さに苛まれ、立ち直るまで時間を要しました。末端の党員である私ですらこの有様ですから、党勢の拡大に孤軍奮戦していた木原さんの心中は察するに余りあります。

(以下略)

【原告 M さん（元党員）】

(1) 寄附等（パーティー券・グッズ購入、党費納入）をしようと思った理由は何ですか？

2024 年 10 月頃から吉野敏明氏の YouTube 「【公式】吉野敏明の政経医チャンネル～日本の病を治す～」を視聴していました。日本誠真会という政治団体の立ち上げを知り、今の日本の政治を変えられるのは日本誠真会だと信じ党を応援しよう決めました。その方法として寄附等を行い、2025 年 7 月の参議院議員選挙の資金として活用していただき全国から日本誠真会公認の多くの参議院議員が輩出されることにより

日本を変えてほしいと切望していたためです。

(2) 原告団に加わろうと思った理由は何ですか？

「日本誠真会が日本を変える」、「総理大臣になって日本を元に戻す」と公言されていた吉野敏明党首を信じて寄附等を行い、参議院議員選挙ではボランティアやポスター掲示など実務を行って応援をしました。しかしながら、党首でありながら参議院議員選挙に二刀流（歯科医師と立候補者）として党に全霊全身で向き合わない姿勢や2025年12月の南出顧問解雇および木原副党首の除名という事象が起こったことより、吉野党首の独裁体制と言動不一致が明白になり不信感を持ちました。さらに、政治をお金集めの手段に利用していたのではないかという疑念もあり、真実を明らかにしてほしいと思いました。そして、違法な行いをしているのであれば法をもって裁かれるべきだと考えました。また、これ以上自分と同じように無念な思いや辛い経験をする犠牲者が増えないように社会的制裁を受けるべきだと思ったからです。

(3) その他、ご意見等がありましたらどうぞ

2025年5月から街宣活動でのビラ配布、イベントスタッフ、参議院議員選挙などのボランティアをしてきました。2026年1月に開催が予定されていた講演会の準備段階まで、自分の時間と労力、そしてお金も惜しみなく提供して参りました。日本誠真会を多くの人に知っていただき、知名度が上がり、党員が増えるようにとの思いからです。そのことが、日本を良くすること、素晴らしい日本を子孫に引き継ぐことだと強く信じていました。

しかしながら、参議院議員選挙ボランティアや支部準備室の活動を行い党との関りが深くなるにつれ、党首の党に対しての関心の無さや党本部の脆弱さに不信感を持つようになりました。そのような状況の中で、木原副党首だけがいつも丁寧に対応していただきましたし、web勉強会も開催していただいていたので活動は続けていました。その後、2025年12月7日に木原副党首が除名されたことを知り大きな衝撃を受けました。「誠意と真実と敬い」を掲げながら卑劣なことをする日本誠真会が信頼できなくなり、1月開催予定の講演会の残務処理を終え、日本誠真会を離党しました。全国に党の土台を作るために走り回り、身を粉にして党のために尽力されていた木原副党首を一方的に除名処分には許し難いことです。吉野敏明氏は「4 毒抜きをしていると人を許せる。自分は今まで多くの機会に人を許してきた。愛とは許すこと。」というようなことをYouTubeチャンネル「吉野敏明チャンネル～日本の病を治す～」で何度も発言していました。その言葉と裏腹に南出顧問の解雇と木原副党首の除名処分が日本誠真会から一方的に行われたことは言語道断です。また、その頃から吉野党首から公表されることは、信じがたいことばかりでした。その中でも、支部準備室に

については非公式組織だと公表された言葉に憤りを覚えました。それまで私たちが一生懸命に活動してきたことへの労いもなく、切り捨てられたことは悔しさでいっぱいです。未だに YouTube で多くの人の前で平然と発信されている姿に、この人には人間としての良心があるのだろうかともどかしくなります。吉野敏明氏には説明責任を果たすとともに、これまでの行いについて法場において正しく審判されることを願っています。

かうした元党員の皆さんの声を、吉野敏明氏は無視し続けてきたからこそ、原告の皆さんはこの裁判を提起せざるを得なかったのです。

原告の皆さんは、お金だけを問題としてゐるわけではありません。前の参院選の際、家族や友人・知人に対して、誠真会に一票を投じるやう熱心に勧誘した方も少なくありませんでした。元党員の原告Aさんは「私自身が積極的に活動をしていた当時は、まわりの家族や知人に吉野氏と日本誠真会の支持をお願いし、実際に投票もしていただきましたのに、吉野氏の言っていることとやっていることが違うことで、内外において私自身は精神的な苦痛を受けたと感じています。」と述べてゐます。つまり、家族や友人に投票を呼び掛けたことによつて、家族と関係が悪くなつたり、友人を失つた方もゐるのです。お金だけではなく人間関係をも犠牲にされたのです。

吉野氏は、何事も「金、金、金」の人物だと思ひます。令和8年1月8日に配信された、石田和靖との有料動画の中で「令和7年12月以降、党員が減ったものの、この前、300万円の寄附があった。党費は月1000円なので、3000人の党員が増えたのと同じ。だから党員が減っても全然困らない」と言い放つてゐました。

吉野氏は、党員を金づるとしか思つてゐないからこそ、かういふ発言をするのです。前の参院選では、選挙区内を手弁当で駆けずり回つて公設掲示板に選挙ポスターを貼つてくれた党員・ボランティアがたくさんゐましたが、そのやうな党員らの苦勞に寄り添ふ気持ちがあれば、このやうな発言はしないはずです。党員のことなど気にも掛けない吉野氏は、政治団体の党首たる資格はありません。

原告の皆さんは、この裁判を通じて、被告らが行つてきた政治ビジネス、選挙ビジネスの実態を白日の下に晒すことにより、数年後、自分たちと同じ思ひをする党員・支援者を一人も出さないため、被告らが二度と同様の政治ビジネス、選挙ビジネスをさせないため、そして、我が国の民主主義を守るためにも、提訴に踏み切つたのです。

どうか、裁判所におかれては、単に原告らの私益を守るといふ次元にとどまらず、公益的な観点から真相究明に力を尽くしてくださるやう、心よりお願い申し上げます。

以 上